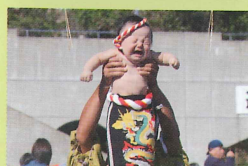
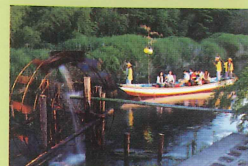


海部の ふるさと マップ

～ 海陽町編 ～
海部 kaifu

海部年中行事

- 1月 左義長
(毎年 1月15日頃)
- 6月 母川ほたる週間
(毎年 6月第2土曜～1週間)
- 7月 愛宕神社鎮火祭
(毎年 海の日の前日)
住吉神社祭り
(毎年 海の日の前日)
- 8月 阿波踊りと
民謡の夕べ
(毎年 8月15日)
海部川筋盆祭り大会
(毎年 8月18日)
- 10月 鞆浦湊柱神社奉納
赤ちゃんの土俵入り
(毎年 10月第3日曜の前日)



名所



城満寺



手倉湾



浪切不動尊

アクセスマップ

- 徳島市内から車で(国道55号)高知方面に約1時間50分
- JR徳島駅(特急)から海部駅まで約1時間30分
- 高速バスで徳島市まで
徳島・大阪間/約2時間30分 徳島・新神戸間/約1時間50分
徳島・京都間/約2時間50分 徳島・関西国際空港間/約2時間40分
- 高知方面から
高知市から車で約3時間10分。室戸岬から車で約1時間10分。



お問い合わせ先

海陽町
役場

〒775-0295
徳島県海部郡海陽町大里字上中須 128
TEL(0884)73-1234 (代)
<http://www.town.kaiyo.lg.jp/>

海陽町
観光協会

〒775-0502
徳島県海部郡海陽町久保字板取 219-6
道の駅「穴喰温泉」内
TEL(0884)76-3050
<http://www.kaiyo-kankou.jp/>

海陽町
教育委員会

〒775-0202
海陽町四方原字杉谷 73番地
海南文化村内
TEL(0884)73-3100

海陽町立
博物館

〒775-0202
海陽町四方原字杉谷 73番地
海南文化村内
TEL(0884)73-4080
<https://www.town.kaiyo.lg.jp/bunkamura/>

区分	種別	名称	所在地	所有者・管理者等	指定年月日	概要
国指定	天然記念物	母川オオウナギ生息地	高園母川	海陽町	S31. 6.29	Anguilla marmorata Quoyet Gaim Uran. 南方系の鰻、別名カニクイ、長1.5～2m、重10～16kg。（表紙写真下）
県指定	天然記念物	ヤッコソウ自生北限地	奥浦（明現神社）	海陽町	S29. 8. 6	Mitrastemon Yamamotoi Makino. 椎の木に寄生する双子葉植物、世界の分布北限、奴に似る。
町指定	有形文化財	法華経祖師堂	鞆浦	法華寺	S51. 1.20	文久3年建立、総ケヤキの桜閣造り、正面波風下の竜の彫刻は県下一の定評。
	有形文化財	涅槃図	高園	医福寺	S51. 1.20	釈迦仏臨終の模様を描く紙本彩色仏画、安政2年気空寂作。
	有形文化財	涅槃図	野江	真福寺	S51. 1.20	150.5×201cm 軸装、紙本彩色、明治初期奥浦の坪井織蔵の作。
	有形文化財	母川蛭合戦	鞆浦	個人	S51. 1.20	文化7年京都の墨海の前画を内藤国蔵が製版した阿波名所二十組の一、他に眉山・祖谷・羅漢の三点も所蔵。
	有形文化財	十六善神像	奥浦	薬師寺	S51. 1.20	116.4×59.6cm 軸装、絹本着色、室町時代末葉の作品。
	有形文化財	西山下六地藏	奥浦	（町教育委員会）	S51. 1.20	貞享元年富田与兵衛寄進の石仏、西山地藏庵縁故。
	有形文化財	上野山石仏	芝	（町教育委員会）	S51. 1.20	室町時代の石仏と五輪塔。
	有形文化財	阿弥陀如来立像	大井	阿弥陀寺	S51. 1.20	高59.2cm、一木造り、漆箔、着衣彩色、素人造りと思われる。
	有形文化財	夫婦合掌石仏	大井	阿弥陀寺	S51. 1.20	室町時代の作と言われる小石仏、堂内安置。
	有形文化財	阿弥陀如来立像	高園	医福寺	S51. 1.20	高96cm、寄木造り、内割り彫眼、螺髪38個、肉身金泥、衣服彩色、補修痕あり、鎌倉時代の作。
	有形文化財	弘法大師坐像	高園	医福寺	S51. 1.20	江戸時代の仏師淡州光慶明款作二体、寄木造り、玉眼、彩色、貞享3年作高52cm、同4年作高50cm。
	有形文化財	阿弥陀如来立像	櫛川	九品寺	S51. 1.20	高96.1cm、一木造り、来迎印相、手足も同木、鎌倉時代の優作。
	有形文化財	地藏菩薩立像	芝	地藏寺	S51. 1.20	高58cm、一木造り、玉眼。江戸時代の作。
	有形文化財	明徳逆修石仏	芝	地藏寺	S51. 1.20	高166cm、巾33cm 砂岩質板碑、地藏菩薩像の線刻、明徳元年十月の銘刻、逆修供養碑、伝説あり。
	有形文化財	門前谷石仏	古田	城満寺	S51. 1.20	門前谷旧城満寺跡出土、高32cm硬質砂岩石仏、地藏菩薩蔵の線刻、衣襲の特徴より室町時代上記の作と鑑定。
	有形文化財	釈迦如来立像	中山	真光寺	S51. 1.20	木造、禪宗寺院当然の本尊。
	有形文化財	チギレ坂地藏仏	中山	真光寺	S51. 1.20	中山・古田境のチギレ坂西麓、室町時代作の五輪塔。
	有形文化財	阿弥陀如来立像	野江	真福寺	S51. 1.20	来迎印相、阿弥陀如来像。江戸時代の作か。
	有形文化財	阿弥陀如来立像	高園	正賢寺	S51. 1.20	二体、時代は新しいが、金泥をほどこした美しい仏像。仏殿、仏具とも立派である。
	有形文化財	阿弥陀如来立像	鞆浦	善称寺	S51. 1.20	高58cm、寄木造り、内割り漆箔、室町時代の作、元禄14年5月3日、四代祐信の時代造立。
	有形文化財	阿弥陀如来坐像	富田	善福寺	S51. 1.20	来迎印相、寄木造り、内割り、漆箔、玉眼。江戸時代の作。
	有形文化財	阿弥陀三尊像	鞆浦	多善寺	S51. 1.20	高72cmの阿弥陀如来像、脇侍高39cmの観音、勢至像台座一連、寄木造り、玉眼、漆箔、室町時代の作。
	有形文化財	薬師如来坐像	鞆浦	万照寺	S51. 1.20	高36.5cm、両手法界定印の釈迦如来の形状、一木造り膝前別材螺髪を置かず波文、両耳大、作風素朴、室町時代の作。
	有形文化財	日蓮上人坐像	鞆浦	法華寺	S51. 1.20	日蓮自作といわれる秘仏、左手に経巻、右手に宝棒をとる。室町時代の作か。
	有形文化財	薬師如来坐像	奥浦	薬師寺	S51. 1.20	高30.5cm、左手に薬壺を持つ一木造りの坐像、肉身金泥、着衣彩色、室町時代の作。
	有形文化財	大日如来坐像	奥浦	薬師寺	S51. 1.20	高47cm、寄木造り、玉眼、宝冠、漆箔、智劔印、舟形光背、中央色の濃い江戸時代の作。
	有形文化財	聖観音立像	奥浦	薬師寺	S51. 1.20	高30cm、一木造り、左手が体に密着する田舎仏師の作、藤原時代末期の作。
	有形文化財	建依別中島氏詮作	四方原	海陽町	S51. 1.20	海部氏の末、中島九代、新々刀、土佐田野に住む。（町立博物館所蔵）
	有形文化財	阿州住泰古作	四方原	海陽町	S51. 1.20	大永五年作、古刀。（町立博物館所蔵）
	有形文化財	県史料科目録登載古文書	鞆浦	個人	S51. 1.20	岡沢家所蔵の古文書の内9点、三浦家所蔵の古文書の内1点、森下家所蔵の古文書の内4点。
	有形文化財	海部閑六書翰	野江	個人	S51. 1.20	明治3年獄中から郷里の甥岡沢尉之進に送った書翰。庚午事変の秘史料。
	有形文化財	県史料科目録登載古文書	鞆浦	善称寺	S51. 1.20	善称寺所蔵の古文書の内1点。
	有形文化財	庄屋文書	奥浦	海陽町	S51. 1.20	藩政期の棟付帳・検地帳等県史料科目録登載古文書。
	有形文化財	県史料科目録登載古文書	高園	個人	S51. 1.20	野尻家所蔵の古文書の内103点。
	有形文化財	鞆浦海嘯記	鞆浦	（町教育委員会）	S51. 1.20	嘉永7年（安政元年）の大津波の記録碑。
	有形文化財	大岩供養碑	鞆浦	（町教育委員会）	S51. 1.20	伝説の大岩、慶長9年12月16日、宝永4年10月4日の二度の大津波の記録と遭難者供養の碑。
	有形文化財	寺山石斧	奥浦	海陽町	S51. 1.20	昭和3年寺山より出土、無土器時代の砂岩石斧約13cm、両面打製、中通磨製。
	有形文化財	斎部提瓶	四方原	野江部落	S51. 1.20	寺山一号古墳より大正8年出土。6世紀中頃の須恵器、口縁部内弯、体部前面力キメ調整細、側耳退化。（町立博物館寄託）
史跡	跡	東光寺跡	鞆浦	（町教育委員会）	S51. 1.20	曹洞宗東光寺跡、益田豊後とその一族の墓、宝篋印塔、たねのざんと、洞穴、五輪塔、残党の伝説。
史跡	跡	那佐湾一の島	穴喰浦字那佐	（町教育委員会）	S51. 1.20	元龜2（或いは永禄11）年、海部城主越前守が島弥九郎を急襲した古戦場。三島祠に弥九郎を祀る。土佐長宗我部軍侵攻の起因地。
史跡	跡	古田城跡	古田	（町教育委員会）	S51. 1.20	城の越山上、旧海部郡司居館、古田庸俊の居城、海部合戦後北村閑斎が守る。山麓門前谷に旧城満寺跡。
史跡	跡	和奈佐意富曾社旧社跡	鞆浦字大宮	（町教育委員会）	S51. 1.20	郡内唯一の延喜式内社（郷社）跡、慶長9年に大里松原へ遷宮。現在の大里八幡神社・中宮。
史跡	跡	芝の掘抜き	芝	海部川沿岸土地改良区	S51. 1.20	文政年代、岡沢閑兵衛主宰宇平施工隧道約55m、巾1.2m、高2.0m、徳島藩内最初の工事、一部は現在も活用。
史跡	跡	判形人屋敷跡	鞆浦	個人	S51. 1.20	寛永17年南方の抑えとして津田村より移した頭36人の屋敷跡、はんぎょの地名が残る。現在その首長であった木内家在中。
史跡	跡	御陣屋跡	鞆浦	漁協 住宅団地	S51. 1.20	鞆城廃止後、郡内行政と南方の備えとして城山下に置かれ、寛政11年に対岸立岩の新御陣屋に、文化4年に日和佐に移される。
史跡	跡	海部城跡	鞆浦	個人	S51. 1.20	海部氏の居城、天正6年土佐軍、同13年豊臣軍に二度落城、後に阿波九城の一つ鞆城となり、寛永15年一国一城制で廃城。
史跡	跡	寺山古墳跡	野江	個人	S51. 1.20	5世紀後半から6世紀中頃築造の古墳跡（一号円墳、二号前方後円遺構、三号前方後方墳）、豪族居住の遺跡。
天然記念物		轟の漣痕	野江字轟	個人	S51. 5.20	高約2.5m、巾約20mの美しい漣痕壁。
天然記念物		伊豆尻化石	高園	個人	S51. 5.20	昭和28年富田伊豆尻隧道より出土、下部白亜紀の羊歯 Cladophlebispp・Nilsonia sp.の化石。
天然記念物		ツチトリモチ	櫛川	杉尾神社	S53. 4. 1	雌雄異株多年草、ハイノキ類の根に寄生、高5～10cm、雌花は黄色の花柱を赤色卵形の小体が被う。
有形文化財		寺山遺物	四方原	海陽町	S56. 1.20	寺山古墳出土、銀環径3cm、2.1cm2個、鉄片（鏃）、鏡片3.5×2.6cm、須恵器破片（奈良元興寺文化財研究所発掘調査）
有形文化財		大谷土器	奥浦	海陽町	S56. 1.20	弥生時代後期の壺、高杯、甕の破片約70個、県南最初の出土。（町立博物館所蔵）
天然記念物		ハッチョウトンボ	中山（トンボ公園）	海陽町	H 4. 6.20	トンボ目トンボ科ハッチョウトンボ属に属する日本で最小のトンボ。体長は2cmほどで、世界でも最も小さな部類に属する。

鞆浦

散策絵地図

海部城下の港町

「島弥九郎事件」の舞台となった「那佐湾」
弥九郎を乗せた船は、嵐を避けるために
入港し、数日を過ごしたといわれますが、
阿波進攻のための偵察とみなされ、
監視役「海部三郎」の軍勢に
よって討ち取られたといひます。

那佐「吉野神社」の境内には
「長宗我部親房（島弥九郎）
鎮魂碑」があります。

鞆浦の民家の特徴要素「葺立」の
軒裏に斜めに板を打ち付け、
暴風雨の吹き上げの
風を逃す工夫

旧魚協舎から「法華寺」へ
向う参道は住民にとっての
憩いの場。豊かな時間が
流れています。最高の町並み
ビューポイントですよ。

「法華寺祖師堂」は文久3年の
建立。見事な「竜」の
彫り物です。

「ふれあいの宿
遊遊NASA」

「クジラ石」
古代信仰の
パワースポット

「愛宕山」

「愛宕神社」

南町の洞穴には
「益田豊後」の墓がある
という伝承があります。

大宮

「萬照寺」

「天理教教会」

昔は「鞆浦千軒」と
いわれるほど栄え
寺も7軒あったと
いひます。(現在4軒)

吉祥山
「法華寺」

素敵な「うだつ」の
ある家

港沿いの通りの奥には
「ほろや」と呼ばれる
路地がのびています。

東町

事件の審議は13年間に
渡り、ついには豊後と、阿波藩
家老「長谷川越前」が幕府評定所で
対決することとなりました。その結果
豊後の有罪は確定しますが、江戸から
阿波への護送中に豊後は病死したと
いわれています。この権力を持ち過ぎた
「城代の謀反」という大事件が、
阿波九城(支城)の廃止に至った
要因ともなりました。

豊後は、阿波藩
から「海部」を分藩
させることを画策して
いたともいわれて
います。

「鞆浦海嘯記」
安政年間の大震災の
一つ。嘉永7年11月に
起った「安政南海地震」
での津波被害の様子
を、海部郡代「高木
宗矩(真蔵)」が
記した碑

高倉

「湊社神社」と
住吉神社」が
合祀された
「徳神社」

北町

仲町

鞆浦
福祉会館

360°
VP

「大岩供養碑」
慶長と宝永の2つの地震
津波災害の碑
(慶長) (宝永)

「恵火須神社」

益田家と蜂須賀家は豊臣配下
では同僚で、姻戚関係もあり、
阿波藩の有力な家老として、
江戸家老も兼ねていました。

寛永10年、阿波藩を揺るがせる大事件が起りました。
海部城代を務めていた「益田豊後」が江戸の大火の
折に海部の森林を藩の許可を得ずに伐採して江戸に
送り巨万の利益を得たことなどが発覚し、豊後は大栗山
中に蟄居させられました。しかし、これを不服とした
豊後は蜂須賀家にこそ不正ありと幕府に訴え、
事件は阿波藩の存続に関わる問題に
まで発展しました。

「幕末志士
かいふかんろうおうけんしょう
海部閑六翁顕彰碑」
武芸に秀で、維新の
政治家「岩倉具親」
の護衛として活躍

新御陣屋跡
(寛政11年)

「鞆浦橋」

鞆浦では現在でも
「大敷網」漁が盛んです。

「鞆浦港」

「益田豊後事件」

「母川ホタル祭り」
ゲンジボタルが乱舞
します。

「せりり岩」
周辺は、国指定
天然記念物の
「オオウナギ
生息地」です。

海部川上流 30km 「轟の滝」

「JR牟岐線」

至高知 R55 至徳島

「新海部川橋」

→至大里

史跡海部城跡
森志磨守と
御半形人々墓

判形人
屋敷跡

判形人は、藩からお墨付き
をうけ、不正の取締りや
御番人としての役も
与えられていました。

鞆浦は、海部川河口南岸に位置する河港性の小さな漁港
です。今なお「古き良き漁師町」の風情を色濃く残した
地域として知られていますが、その歩んできた歴史は波乱に
富んだものでした。中世、「海部城(鞆城)」を中心として
勢力を誇った豪族、「海部一族」は、海部川流域でとれる
「砂鉄」などの豊かな資源を利用し「刀」の創作をはじめ、
数代にわたり積極的に推奨されたことで、独創的で
切れ味を誇る「海部刀」が生まれました。その後、土佐の
「長宗我部元親」の末弟「島弥九郎」が、病氣療養のため
海路で京に向かう途上に「那佐港」に寄港していたところを、
海部城の軍勢に急襲され討死する事件(元龜2年)が
起こります。この事件が引き金となって「長宗我部元親」は
阿波攻めを開始し、天正3年に「海部城」は落城して
しまいました。しかし、その後「豊臣秀吉」の四国征伐
(天正13年)の功績から阿波へ入国を果たした「蜂須賀家
政」によって「海部城」は修築され「阿波九城」の一つと
なりますが、元和元年に徳川幕府が定めた「一国一城
令」をうけ、ついに廃城となりました。しかし、ここでも
鞆浦を国境の要衝として重要視した阿波藩によって「海
部郡代役所(陣屋)」が設置されることとなり、それ以後も、
江戸後期にかけての海部郡に置ける中心地として重要な
位置を占めることになったのです。